

1 単元名 漢文に親しみ、今の生活に結びつけてみよう

2 目 標

- ・音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。 [知識及び技能]
- ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものに行うことができる。 [思考力、判断力、表現力等]
- ・言葉がもつ価値に気付くとともに、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

3 単元計画

- 第一次 漢文に親しむ …… 2時間 (本時1 / 2)
- 第二次 故事成語について捉える …… 1時間
- 第三次 故事成語と自分の生活を結びつける …… 2時間

4 本時の学習

(1) 題目 今に生きる言葉 [第一次中1時]

(2) ねらい

- ・漢文を音読し、古典特有のリズムに親しむことができる。〔知識及び技能〕

(3) 学習過程

学習活動と児童生徒の主な意識の流れ	時	評価 (◎) と支援 (・)
1 学習のめあてをつかむ ・漢文の読み方について習うことを見通す。 <漢文をスラスラ読むためには?>	5	・1時間ですぐに力をつけるために、本時の課題を確認する。
2 自分で考える 実際に漢文を音読する。 範読を聞き、一人・ペア・列で音読する。 「読めた」か「読めなかった」か、自分がどのくらい読めているかを振り返る。 ・「読めた。」 ・「読めなかった」 ・「今の言葉と違うから読めなかった。」	10	・個人で読む時に読めるように、範読を聞きながらメモをしていくように伝える。 ・読み方に着目させるために、授業の途中で一度確認し、「読めなかった」生徒たちになぜか発問する。
3 自分の考えを伝え合う 今の言葉の読み方と漢文の読み方の違うところを探し、ムーブノートで共有する。 ・「は」を「わ」と読む違い。 ・読むリズムが違う。 ・漢字の読み方が今と違う。	10	・漢文特有の読み方に気づくために、今の読み方と比較する。【ICT】 ◎比較することで、リズムに気づくことができる。(ムーブノート) [知識・技能]
4 みんなで考えを深める ・ムーブノートに自分の考えを書く。 ・全体で共有する。	15	
5 「わかった」「できた」をまとめる ・この時代の読み方を意識して読む。 ・昔の読み方を覚えて読む。 ・漢字の読み方を覚えて読む。 次の授業での、漢文の読み方に対する目標を決める。 もう一度、音読をする。	10	・課題に戻るために、どのように読むべきかを、ノートにまとめさせる。 ・特有のリズムに親しむため、次の目標を立てる。 ・次の授業に生かすために、最後に音読する。

(4) 参観の視点に関する工夫点

- ①生徒が自分の言葉でまとめを書くために、ムーブノートで意見を共有する。